

会社沿革

西暦	和暦	内 容
1960年	昭和 35年	岩谷産業(株) A.R.ウッド社(米国)のブルーダーの輸入を開始(養鶏向け)
1970年	45年	岩谷産業(株) A.R.ウッド社の自動養鶏システムを導入
1972年	47年	岩谷産業(株) 養豚場に初めてウインドレス豚舎を納入
1979年	54年	岩谷産業(株) 社内で種豚事業計画提出
1981年	56年	岩谷産業(株) 農水産開発営業部を新設 営農部畜産課を設ける 6月 米国のPIC社(A.R.ウッド社からの紹介)から最初のケンボロー豚220頭が羽田空港に到着
1982年	57年	4月 岩谷産業(株)の100%子会社として設立 4月 PIC社とのフランチャイズ契約締結 9月 岩谷産業(株) 岩谷直治社長、住田町表敬訪問 9月 東北農場の起工式を挙げる 11月 PIC社USAより東北農場向け最初の第一次原種豚、大阪空港にチャーター機で到着
1983年	58年	11月 東北農場産 ケンボロー豚 第1号出荷
1984年	59年	11月 東北農場 技術管理コンピュータシステム運用開始
1985年	60年	10月 本社所在地を岩谷産業(株)から八丁堀に移転
1986年	61年	3月 東北農場 原々種豚農場に変更 6月 鹿児島空港にチャータージャンボ機で最初の原々種豚 415頭到着 11月 東北農場ヒストセンター開設
1987年	62年	5月 PIC社と1回目のフランチャイズ契約更改 8月 本社所在地を八丁堀から蔵前に移転
1988年	63年	2月 (株)児湯食鳥と合併で南九州種豚株式会社設立 10月 本社所在地を仙台へ移転
1991年	平成 3年	7月 雌種豚ケンボロー21出荷開始 CHM展開へ
1992年	4年	5月 創立10周年記念行事住田町で開催、種豚の生産から販売までの一貫体制確立 5月 PIC社と2回目のフランチャイズ契約更改
1993年	5年	4月 本社所在地を仙台から蔵前に移転 7月 東北AIセンター設立
1995年	7年	雌種豚ケンボロー22出荷開始 7月 南九州種豚(株)買収、九州農場として稼動
1996年	8年	4月 岩谷産業(株)から営業権を譲受、プラント部門を設置し、請負工事・器材の販売を開始 4月 ポークチェーン研究会設立
1997年	9年	5月 PIC社と3回目のフランチャイズ契約更改
1998年	10年	雄種豚PIC265出荷開始
1999年	11年	DDI社の中国製ナースリーコンテナ販売開始
2000年	12年	宮崎県で92年ぶりに口蹄疫発生
2001年	13年	我国初のBSE発生、豚価高騰 11月 雌種豚ケンボローA出荷開始
2002年	14年	4月 創立20周年記念式典開催 5月 PIC社と4回目のフランチャイズ契約更改 雄種豚PIC365出荷開始
2003年	15年	3月 本社所在地を蔵前から日本橋兜町に移転(郵船兜町ビル4F)
2005年	17年	九州農場をコマーシャル農場に変更 GENUS 社、PIC社の親会社SYGENを買収
2006年	18年	ポークチェーン研究会設立10周年、30回目のセミナー開催
2007年	19年	6月 PIC社と5回目のフランチャイズ契約更改 米国ARLYN SCALES社と代理店契約(オートソーティングシステム) 米国OSBORNE社と代理店契約(母豚管理システム)
2008年	20年	独WEDA社と代理店契約(自動液餌システム)
2009年	21年	7月 8年ぶりに開催されたIPPS(国際養鶏養豚総合展)に参加 9月 第2AIセンターとして花巻AIセンター設立
2010年	22年	4月 宮崎県で10年ぶりに口蹄疫発生、牛7万頭、豚22万頭が殺処分 8月終息 11月種豚導入再開
2011年	23年	3月 東日本大震災発生するも従業員、家族に犠牲者が無く、また農場の損害も比較的軽微 7月 雌種豚ケンボロー28 発売
2012年	24年	3月 東北農場新養豚管理システム『PIGAID』稼動 4月 (有)田代ファームを買収、原々種豚場の機能を持たせた直営農場(田代農場)として稼動 5月 PIC社と6回目のフランチャイズ契約更改 5月 創業30周年記念式典開催
2014年	26年	ポークチェーン研究会解散、ケンボロー研究会設立 12月 九州農場売却
2016年	28年	9月 田代農場、新豚舎竣工式
2017年	29年	5月 PIC社と7回目のフランチャイズ契約更改 9月 本社所在地を日本橋兜町から日本橋小網町に移転(日本橋SOYICビル3F) 12月 東北AIセンター、新豚舎竣工式
2018年	30年	11月 PRRS抗病性種豚の日本市場販売に向け、PIC社との取り組みを開始